

# 2018 年度 センター試験 英語筆記（本試験） 分析

## 全体概況

試験時間 80 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：54 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化    ○ やや難化	● 変化なし    ○ やや易化    ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし    ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p><b>総評</b>                  大問数、出題数に大きな変化はなく、出題分野・出題形式も第3問の対話文問題がなくなったこと以外は、昨年と同じである。配点については、例年通り、読解問題の比重が非常に高く(139 点/200 点)、語彙力や素早い処理能力が必要とされた。難易度については、どの設問にも難解なものが見受けられず、全体として「変化なし」とした。</p>		

## 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第1問	発音・アクセント	14 点	昨年と同様、発音問題が3問、アクセント問題が4問という出題である。出題された単語はすべて基本的なものであり、やや易化したと言える。
第2問	文法・語法・会話	47 点	A が空所補充(四択)問題、B が語句整序問題、C が応答文の完成問題という昨年と同じ形式であった。対話文問題がなくなった影響もあり、応答文の完成問題は文脈判断が要求されるものであった。
第3問	会話・文脈把握 語数 A. 330 語 B. 540 語	33 点	A が不要文指摘問題、B が意見の要約(ディスカッション)問題という昨年と同じ形式であった。B の問題の一部にやや難易度の高い問題があった。
第4問	資料読解 語数 A. 379 語 B. 161 語	40 点	昨年と同じく、情報の読み取りが出題された。出題形式に変化はなく、ほとんどの問題で解答根拠が探しやすかった。
第5問	長文読解 語数 622 語	30 点	昨年の物語文と異なり、ある惑星への探検を記した日誌が出題された。英文を構成する単語や文構造は平易なものばかりなので、解答に苦勞することはなかったであろう。
第6問	長文読解 語数 602 語	36 点	科学技術の発展が、人の生活にどのような影響を与えるかを論じた文章が出題された。英文・設問ともに読みやすく、解きやすい問題となっている。